

しろや！ 広島城



No.38

広島城紙上フィールドワーク PART2 ～石垣は歴史の博物館なのだ～

お城には石垣がつきものですが、悲しいかな広島城の石垣って、なんとなくスルーされがちです。確かにそれほど高くもないし、反ってないし、石も小さいし。でもじっくり観察すると、築城時から現代までの長い歴史や、むかしの人の知恵をたくさん教えてくれます。石垣は歴史の博物館なのです。きっとあなたも石垣が好きになる。そしてお城が好きになる。

I 石垣の基本

石垣は、石の加工具合によって3つに分類されます。次の①から③へと発展しましたが、使う石の種類によっても方法は違いました。また、ひとつの城でも場所によって石垣の種類が違うことも珍しくありません。

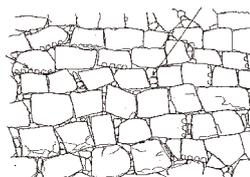
①野面積

自然の石やほとんど加工しない石を積み上げる方法。ごつごつしてすき間だらけなので登りやすい。



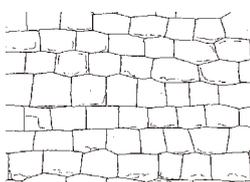
②打込はぎ

すき間を減らすため石をちょっと加工した積み方。お城ではポピュラーな石垣。



③切込はぎ

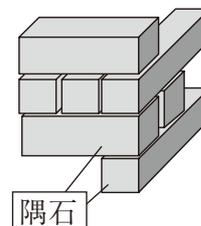
すき間ができないよう石をとことん加工する方法。技術と手間がかかるので、目立つ所にだけ使った。広島城はない。



II 隅に注目 ～算木積～

石垣の隅部(角)は崩れやすく、上に建物も乗るのでていねいに積みねばなりません。他の部分より大きな石を使うなど工夫しました。そして、長四角の石を互い違いに組み合わせ、間に短い石をはさむ方法が開発されました。これを算木積といい、慶長10年(1605)頃に完成しました。完成形の算木積は長辺が短辺の2～3倍の長さを持ちます。隅部が完成形の算木積かそうでないかを見れば、石垣の新旧を知ることができます。

ところで、算木とはむかし計算に使われた棒のことで、隅石がこれに似ていたから算木積と呼ばれるようになったそうです。



III 広島城歴代城主と石垣

【初代 毛利輝元】天正17年(1589)から10年かけて築城。海岸や島で集めた石を積んだ野面積が多く、算木積は未完成。特に天守台は個性的。

【二代目 福島正則】慶長5年(1600)から20年間、張り切って改修・改築を重ねる。打込はぎで、算木積も完成形。幕府に無断で石垣を直した罪で、広島を追い出されてしまった。

【三代目 浅野長晟】以後廃藩置県まで浅野氏が城主を務める。打込はぎで、完成形算木積。きちんと幕府の規則を守りながら、新しく石垣を積み替えた。

広島城石垣たんけんマップ

こんにちは!



堀でくらす
フナムシさ



----- 土塁
元々は本丸上段の周囲は石垣だった。正則が崩した後はずっと土塁(土手)。こんなに崩したのに許してもらえなかった正則。時々、もったいないおぼけが出るとか出ないとか。



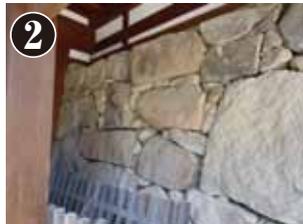
石垣でくらす
イタチだよ

6 ↑
遠くて肉眼では見にくいかも

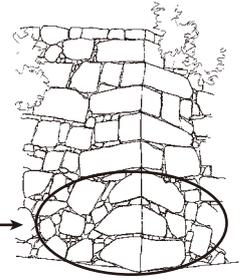
1はここから見よう。でも堀に落ちないようにね



★ カキ付石垣
カキやフジツボが付いた石があちこちにある。石垣の材料を海岸や島から集めて来たから。



2 表御門跡
原爆で焼けた石垣が残っている。門の内側は毛利時代、外側は福島時代の石垣。石の形や積み方の違いがよくわかる。一部昭和に新しい石に取り換えられたが、なんだか変な積み方になってしまった。



コラボレーション石垣

右(東)隅石の下3段までは算木積ではない毛利時代の石垣。他は福島時代の打込接ぎ。洪水で崩れて正則が修復したが、使える部分は残して積み替えた。実はこちらが無断修復のひとつと言われている。知らないと気づかないスポット。



鏡石 (かがみいし)

毛利時代の石垣。広島城の中で一番大きな石。本丸に続く大事な門なので、大きな石(鏡石)でアピール。



福島正則の破却石垣

正則が無断改修をとがめられ石垣を崩した跡。でも改修したのは別の場所の石垣だったので結局幕府に許してもらえなかった。



中御門跡

毛利時代の石垣。ここも原爆の火災で門と一緒に石も赤く焼けてしまった。



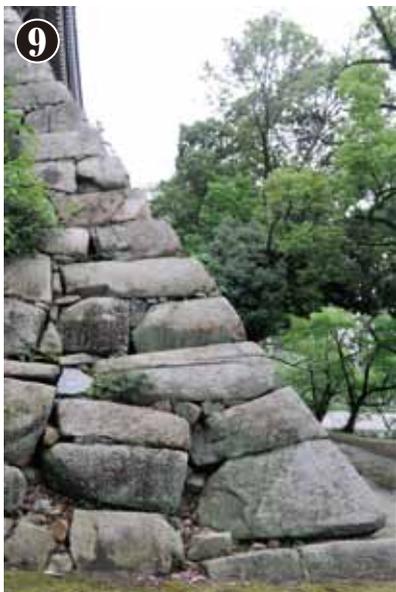
謎の刻印エリア

城内には正則時代の石垣に刻印がなんと39種類200個ある。何の印か実は謎。



毛利時代と福島時代の石垣

よく見ると右(西)は野面積、左(東)は打込はぎ。正則が修復した境目がくっきり。



樋門 (ひもん)

秘密の抜け穴ではなく、排水口。デザインはいろいろ、あちこちに見られる。



天守台の隅石

気持ちは算木積だが未完成。傾斜をつけるために石を斜めにカットした、ものすごく手間のかかった石垣

小天守台南の隅石

これぞ広島城一の算木積。長辺が短辺の3倍ある。天守台にかけた手間はなんだったのだろう。



変な歯形・・・

石垣に歯形のように並んだ凹を目にすることがあります。石を割ったあとに残った矢穴といえます。

石の割り方は右のイラストをご覧ください。→



人面石ではありません。ここで割ろうと思い矢穴をあけましたが、途中で気が変わり、割るのをやめた跡。

石垣だってつらい・・・

築城から400年余り。長い年月の中で、石垣も試練に耐えています。

これは上に乗る石や建物の重みに耐えかねて、ひびが入った石垣。



重いよ!

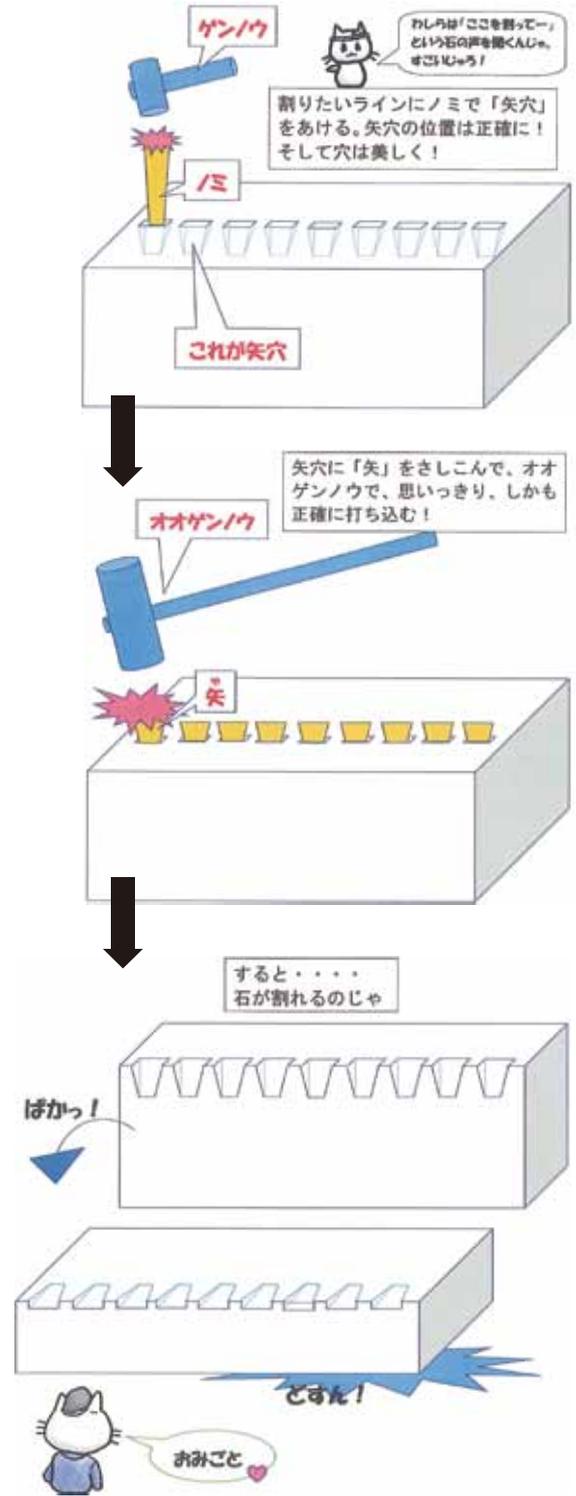


やたら元気な木に石が食べられています。戦後城内に植えられた木の根のせいで崩れてしまう石垣も少なくありません。

さて、ざっと広島城の石垣を紹介しましたが、一見地味な石垣も、なかなか奥が深いでしょう？少しは石垣に興味を持っていただけたでしょうか。お城を好きになっていただけたでしょうか。石垣によじ登り、堀に下りることができればもっといろいろな秘密が見つかることでしょう。いつか本格的な石垣探検をしたいものです。

(岡野 孝子)

石の割り方



しろや
!
広島城

編集・発行

財団法人広島市未来都市創造財団
広島城 [4月1日付けで公益財団法人広島市
文化財団に名称が変更されます。]

〒730-0011

広島市中区基町 21-1

電話：082-221-7512

FAX：082-221-7519

平成26年3月13日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

(12月～2月は9：00～17：00)

入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料：大人360円(280円)

(※平成26年3月31日までの料金です) シニア(65歳以上)180円(100円)

小人180円(100円) ()内は30名以上の団体料金

※4月1日から、大人370円、高校生180円、
小中学生無料になります。

休館日：12月29日～31日 臨時休館あり

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>

「しろや!広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます



携帯サイト